

2021年 税理士本試験簿記論 第1問及び第2問解答解説

I C O 解答

〔第一問〕

問 1 (11 点 : 1 点/○)

(1)	①	固定資産台帳	○		
(2)	②	5,342,000	○	③	317,000 ○
	④	151,250	○	⑤	170,500 ○
	⑥	7,363,000	○	⑦	565,000 ○
	⑧	768,000	○	⑨	4,042,500 ○

(3)

仕 入

摘 要	借 方	摘 要	貸 方
現 金	154,000	買 掛 金	30,000
当 座	630,000	資 本 金	77,000
買 掛 金	○ 4,726,000	損 益	○ 5,403,000
	5,510,000		5,510,000

問 2 (14 点 : 1 点/○、2 点/◎)

(1)	①	670,185	◎	②	エ	○
(2)	③	タ	○	④	16,735	◎
(3)	⑤	ソ	○	⑥	ク	○
(4)	①	現金を除く資産の金額			446,790円	◎
	②	負債の金額			326,790円	◎
	③	費用の金額			240,000円	◎

採点基準	1 点/○ × 15 個 = 15 点	満点 25 点
	2 点/◎ × 5 個 = 10 点	

合格水準 : 問1 6点、問2 : 6点、合計12点

〔第二問〕

問 1 (12 点 : 1 点/○)

(1)	473,000千円 ○		
(2)	11年 ○		
(3)	①	26,600千円 ○	② 56,000千円 ○
	③	45,000千円 ○	④ 151,200千円 ○
	⑤	168,000千円 ○	⑥ 16,800千円 ○
(4)	⑦ エ ○	⑧ シ ○	⑨ コ ○ ⑩ シ ○

問 2 (13 点 : 1 点/○)

(1)	① エ ○	② 5,600千円 ○	③ 2,400千円 ○
(2)	④ ア ○	⑤ 15,920千円 ○	⑥ 30,020千円 ○
(3)	⑦ シ ○	⑧ オ ○	⑨ 34,000千円 ○
(4)	⑩ キ ○	⑪ 30,620千円 ○	
(5)	⑫ コ ○	⑬ 600千円 ○	

採点基準	1 点/○ × 2 5 個 = 1 5 点	満点 2 5 点
------	-----------------------	----------

合格水準 : 問 1 8 点、問 2 : 11 点、合計 19 点

第 1 問及び第 2 問合わせて、31 点が合格水準でしょう。

[第一問]

問 1 ポイント

1. 三分法

当期売上高 = 当座売上 + 現金売上 + 掛売上。

当期純仕入高 = 現金仕入 + 掛仕入 - 掛仕入値引・返品 - 自家消費。

当期売上原価 = 前期商品繰越高 + 当期純仕入高 - 期末商品棚卸高。

2. 三分法の勘定記入面

売 上

当期売上	××	当座売上	××
		現金売上	××
		掛売上	××

仕 入

当座仕入	××	値引返品	××
現金仕入	××	当期純仕入	××
掛仕入	××		

売上原価

期首繰越商品	××	損益	××
当期純仕入	××	期末繰越商品	××

3. 個人商店の店主の私用ないし自家消費

(1) 私用による現金の引き出し

(借) 資	本	金	××	(貸) 現	金	××
-------	---	---	----	-------	---	----

(2) 商品の自家消費

(借) 資	本	金	××	(貸) 仕	入	××
-------	---	---	----	-------	---	----

(解 説) 個人商店の損益勘定と残高勘定 (単位: 円)

1. X3年1月1日の資産・負債の整理

X3年1月1日の貸借対照表

売 掛 金	915,000	当 座	30,000
商 品	492,000	買 掛 金	764,000
前 払 利 息	50,000	未 払 光 熱 費	8,000
建 物	4,750,000	借 入 金	2,500,000
備 品	960,000	資 本 金 (注)	3,865,000
	<u>7,167,000</u>		<u>7,167,000</u>

(注) 貸借差額で求める。科目は、個人商店なので資本金となる。

2. 再振替仕訳

(借) 支 払 利 息	50,000	(貸) 前 払 利 息	50,000
未 払 光 熱 費	8,000	光 熱 費	8,000

3. 当座勘定出納帳(補助簿)の記入取引【資料2】

(1) 当座預金の預入

① 売上代金の入金

(借) 当 座	2,646,000	(貸) 売 上	2,646,000
---------	-----------	---------	-----------

② 売掛金の回収

(借) 当 座	4,452,000	(貸) 売 掛 金	4,452,000
---------	-----------	-----------	-----------

③ 追加元入れ

(借) 当 座	140,000	(貸) 資 本 金	140,000
---------	---------	-----------	---------

(2) 当座預金の引出

① 給料の支払い

(借) 給 料	854,250	(貸) 当 座	854,250
---------	---------	---------	---------

② 光熱費の支払い

(借) 光 熱 費	91,000	(貸) 当 座	91,000
-----------	--------	---------	--------

③ 発送費の支払い

(借) 発 送 費	252,000	(貸) 当 座	252,000
-----------	---------	---------	---------

④ 買掛金の支払い

(借) 買 掛 金	4,662,000	(貸) 当 座	4,662,000
-----------	-----------	---------	-----------

⑤ 利息の支払い

(借) 支 払 利 息	153,750	(貸) 当 座	153,750
-------------	---------	---------	---------

⑥ 仕入代金の支払い

(借) 仕 入	630,000	(貸) 当 座	630,000
---------	---------	---------	---------

4. 証憑、その他の補助簿への取引【資料3】

(1) 現金…売上代金の直接使用分

① 仕入代金の支払い

(借) 仕	入	154,000	(貸) 現	金	154,000
-------	---	---------	-------	---	---------

② 修繕費の支払い

(借) 修	繕	費	137,000	(貸) 現	金	137,000
-------	---	---	---------	-------	---	---------

③ 消耗品費の支払い

(借) 消	耗	品	費	21,000	(貸) 現	金	21,000
-------	---	---	---	--------	-------	---	--------

④ 私用による現金の引き出し

(借) 資	本	金	56,000	(貸) 現	金	56,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

⑤ 現金売上…当座預金入金分は除く

(借) 現	金 (注)	368,000	(貸) 売	上	368,000
-------	-------	---------	-------	---	---------

(注) 4 (1)①154,000 + 4 (1)②137,000 + 4 (1)③21,000 + 4 (1)④56,000 = 368,000

(2) 売上原価の算定…損益勘定に売上原価勘定が示されているため、相手科目は売上原価。

(借) 売	上	原	価	492,000	(貸) 商	品	492,000
売	上	原	価	5,403,000	仕	入 (注)	5,403,000
商	品	553,000	売	上	原	価	553,000

(注) (2)⑥630,000 + 4 (1)①154,000 + 後述 4 (4)②4,726,000 - 後述 4 (4)②30,000 - 後述 4 (6)77,000 = 5,403,000

(3) 支払利息の繰延

(借) 前	払	利	息 (注)	52,500	(貸) 支	払	利	息	52,500
-------	---	---	-------	--------	-------	---	---	---	--------

(注) 増加前の年利(X)

X3年1/1	5/1	11/1	12/31
	4ヵ月	6ヵ月	2ヵ月

$$2,500,000 \times X \times \frac{4}{12} = 50,000$$

$$X = 6\%$$

$$\text{繰延額} : 2,500,000 \times (6\% + 0.3\%) \times \frac{4}{12} = 52,500$$

(4) 掛売上・掛仕入

① 掛売上

(借) 売	掛	金 (注)	4,349,000	(貸) 売	上	4,349,000
-------	---	-------	-----------	-------	---	-----------

(注)

売掛金					
期	首	915,000	当座回収	4,452,000	
売	上	4,349,000	期	末	812,000
		5,624,000			5,624,000

② 掛仕入

(借) 仕	入	4,726,000	(貸) 買	掛	金	4,726,000
買	掛	金(注)	30,000	仕	入	30,000

(注)

		買掛金			
借方合計	}	当座支払	4,662,000	期首	764,000
4,692,000		値引返品	※ 30,000	仕入	4,726,000
		期末	798,000		
			<u>5,490,000</u>		<u>5,490,000</u>

※ 【資料2】に「買掛金の決済は、すべて当座勘定で行っている。」とあるため、借方合計の差額は仕入値引ないし返品として仕入勘定の減少とした。

(5) 光熱費の未払

(借) 光	熱	費	35,000	(貸) 未	払	光	熱	費	35,000
-------	---	---	--------	-------	---	---	---	---	--------

(6) 商品の自家消費

(借) 資	本	金	77,000	(貸) 仕	入	77,000
-------	---	---	--------	-------	---	--------

(7) 減価償却

① 建物

(借) 減	価	償	却	費(注)	125,000	(貸) 建	物	125,000
-------	---	---	---	------	---------	-------	---	---------

(注) 取得原価(X)の推定

$$X - X \times \frac{2 \text{年}}{40 \text{年}} = 4,750,000$$

$$X = 5,000,000$$

減価償却費

$$5,000,000 \times \frac{1 \text{年}}{40 \text{年}} = 125,000$$

② 備品

(借) 減	価	償	却	費(注)	192,000	(貸) 備	品	192,000
-------	---	---	---	------	---------	-------	---	---------

(注) $960,000 \times 20\% = 192,000$

5 当期末の損益勘定と残高勘定

		損	益
売	上	原	価
		(② 5,342,000)	売
給		料	上
		854,250	(⑥ 7,363,000)
光	熱	費	
		(118,000)	
発	送	費	
		252,000	
(修	繕	費)	
		(137,000)	
(消	耗	品 費)	
		(21,000)	
減	価	償 却 費	
		(③ 317,000)	
支	払	利 息	
		(④ 151,250)	
(資	本	金)	
		(⑤ 170,500)	
		<u>(7,363,000)</u>	<u>(7,363,000)</u>

②売上原価： $4. (2) 492,000 + 4. (2) 5,403,000 - 4. (2) 553,000 = \boxed{5,342,000}$

③減価償却費：4.(7)①125,000+4.(7)②192,000= 317,000

④支払利息：2.50,000+3.(2)⑤153,750-4.(3)52,500= 151,250

⑤貸借差額。

⑥売上：3(1)①2,646,000+4.(1)⑤368,000+4.(4)①4,349,000= 7,363,000

		残	高		
当	座	(⑦ 565,000)	買	掛	金 (798,000)
売	掛	(812,000)	(未	払	(35,000)
商	品	553,000	借	入	金 2,500,000
前	払	(52,500)	資	本	金 (⑨ 4,042,500)
建	物	(4,625,000)			
備	品	(⑧ 768,000)			
		(7,375,500)			(7,375,500)

⑦当座：=1.△30,000+3.(1)①2,646,000+3.(1)②4,452,000+3.(1)③140,000-3.(2)①854,250-3.(2)②91,000-3.(2)③252,000-3.(2)④4,662,000-3.(2)⑤153,750-3.(2)⑥630,000 = 565,000

⑧備品：=1.960,000-4.(7)②192,000= 768,000

⑨貸借差額ないし、

前期末資本金3,865,000+追加元入れ140,000-私用現金56,000-自家消費77,000+当期純利益170,500=4,042,500

6 三分法(売上原価を仕入勘定で行う一般的な場合)で記録した場合の仕入勘定の整理・振替仕訳

(1) 決算整理

(借) 仕	入	492,000	(貸) 繰	越	商 品 492,000
繰	越	商 品	仕	入	553,000

(2) 決算振替

(借) 損	益	5,342,000	(貸) 仕	入	5,342,000
-------	---	-----------	-------	---	-----------

問 2 **ポイント**

1. 車輛の割賦販売・購入取引



2. 販売側の会計処理…利息の配分は、利息法

(1) 販売時に債権金額から利息を控除した金額で債権を計上する処理を行っている場合
販売時

(借) 現	金	回収額 (貸) 売	上 (注1)	現在価値
割 賦 売 掛 金 (注2)		差 額		

(注1) 販売時の180,000を忘れないように。

$$80,000 + 180,000 \div 1.05 + 180,000 \div 1.05^2 + 180,000 \div 1.05^3 = 670,185$$

(注2) 貸借差額。

(2) 販売時に債権金額で債権を計上し、評価勘定を使って処理を行っている場合

①販売時：X1年4月1日

(借) 現	金	回収額 (貸) 売	上 (注1)	現在価値
割 賦 売 掛 金 (注2)		未回収額	利 息 未 決 算 (注2)	利息総額

(注1) 下記参照。

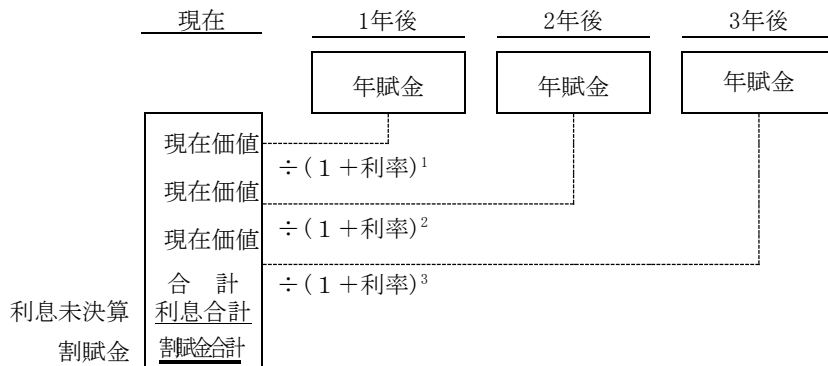
(注2) 毎回の割賦金×回数。

(注3) 貸借差額。

②X2年3月31日の決算日…利息配分は利息法

(借) 現	金	回収額 (貸) 割 賦 売 掛 金	回収額
利 息 未 決 算		利息配分額	利息配分額
		受 取 利 息 (注)	

(注) 受取利息 = 現在価値490,185 (=割賦売掛金540,000 - 利息未決算49,815) × 利率



	現金正価	1年後受取利息	2年後受取利息	3年後受取利息	債権金額
1年後	171,429	8,571	—	—	180,000
2年後	163,265	8,163	8,572	—	180,000
3年後	155,491	7,775	8,163	8,571	180,000
合計	490,185	24,509	16,735	8,571	540,000

3. 購入側の会計処理…利息の配分は、定額法

(1) X1年4月1日

(借) 車 両 運 搬 具 (注2)	合計	(貸) 現 金	支払額
		割 賦 未 払 金 (注1)	現在価値

(注1) $180,000 \div 1.05 + 180,000 \div 1.05^2 + 180,000 \div 1.05^3 = 490,185$ (円未満四捨五入)

(注2) 貸方合計。

(2) X2年3月31日

① 代金の支払…利息配分は定額法

(借) 支 払 利 息 (注1)	利息配分額	(貸) 現 金	支払額
割 賦 未 払 金 (注2)	元本返済額		

(注1) $(\text{年賦金} \times \text{回数} - \text{現在価値}) \times \frac{1\text{年間}}{3\text{年間}}$

(注2) 貸借差額。

② 減価償却…定額法、直接控除法で行うと、

(借) 減 価 償 却 費	××	(貸) 車 両 運 搬 具	××
---------------	----	---------------	----

(解 説) 車両の割賦販売取引…利息を区分する方法 (単位: 円)

1. 販売業B社が販売時に債権金額から利息を控除した金額で債権を計上する処理を行っている場合

X1年4月1日の販売時

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
現 金 [② エ 割賦売掛金]	180,000 (注2) (490,185)	(売 上)	(注1) [① 670,185]

(注1) $180,000 + 180,000 \div 1.05 + 180,000 \div 1.05^2 + 180,000 \div 1.05^3 = 670,185$ (円未満四捨五入)

(注2) 貸借差額。

2. B社が販売時に債権金額で債権を計上し、評価勘定を使って処理を行っている場合

(1) 販売時: X1年4月1日

(借) 現 金	180,000	(貸) 売 上 (注1)	670,185
割 賦 売 掛 金 (注2)	540,000	利 息 未 決 算 (注3)	49,815

(注1) 上記1. (注1)参照。

(注2) $180,000 \times 3 \text{回} = 540,000$

(注3) 貸借差額。

(2) X2年3月31日の決算日…利息配分は利息法

(借) 現 金	180,000	(貸) 割 賦 売 掛 金	180,000
利 息 未 決 算	24,509	受 取 利 息 (注)	24,509

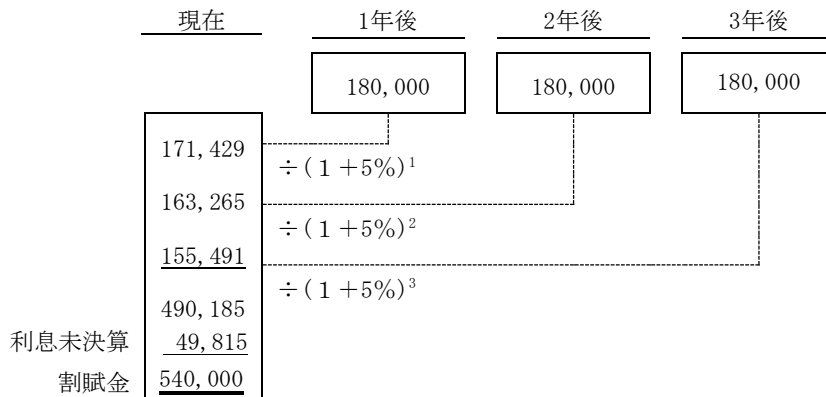
(注) 現在価値 $490,185 (= \text{割賦売掛金} 540,000 - \text{利息未決算} 49,815) \times 5\% = 24,509$ (円未満四捨五入)

(3) X3年3月31日の決算日

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
現 金 [③ タ 利息未決算]	180,000 (16,735)	[② エ 割賦売掛金] 受 取 利 息 (注)	180,000 (注) [④ 16,735]

(注) 1年後現在価値 $334,694 (= \text{現在価値} 490,185 + \text{受取利息} 24,509 - \text{一年賦金} 180,000) \times 5\% = 16,735$

(円未満四捨五入)



	現金正価	1年後受取利息	2年後受取利息	3年後受取利息	債権金額
1年後	171,429	8,571	—	—	180,000
2年後	163,265	8,163	8,572	—	180,000
3年後	155,491	7,775	8,163	8,571	180,000
合計	490,185	24,509	16,735	8,571	540,000

3 運送業C社が債務金額から利息を控除した金額で債務を計上した場合

(1) X1年4月1日

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
[⑤ ソ 車両運搬具]	(注2) (670,185)	現 金	180,000
		[⑥ ク 割賦未払金] (注1) (490,185)	

(注1) $180,000 \div 1.05 + 180,000 \div 1.05^2 + 180,000 \div 1.05^3 = 490,185$ (円未満四捨五入)

(注2) 貸方合計 あるいは 上記1. 参照。

(2) X2年3月31日

① 代金の支払…利息配分は定額法

(借) 支 払 利 息 (注1)	16,605	(貸) 現 金	180,000
割 賦 未 払 金 (注2)	163,395		

(注1) $(180,000 \times 3 \text{回} - 490,185) \times \frac{12\text{月}}{36\text{月}} = 16,605$

(注2) 差額。

② 減価償却…定額法、直接控除法で行うと、

(借) 減 価 償 却 費 (注)	223,395	(貸) 車 両 運 搬 具	223,395
-------------------	---------	---------------	---------

(注) $670,185 \times \frac{1\text{年}}{3\text{年}} = 223,395$

(3) X1年度末の金額

① 現金を除く資産の金額

車両運搬具670,185 - 減価償却費223,395 = 446,790

② 負債の金額

割賦未払金計上額490,185 - 割賦未払金返済額163,395 = 326,790

③ 費用の金額

支払利息16,605 + 減価償却費223,395 = 240,000

[第二問]

問 1 ポイント

1. 工場の自家建設

取得原価 = 製造原価 (= 材料費 + 賃金 + 経費) + 稼働前の借入利子。

2. 備品の交換

固定資産同士の交換からは、等価交換が前提なので、交換損益は計上されない。
したがって、譲渡資産の簿価で譲受資産の取得原価とする。

3. 機械の総合償却

$$\text{平均耐用年数} = \frac{\text{個別資産の要償却額の合計} (= \text{取得原価の合計} - \text{残存価額の合計})}{\text{個別資産の減価償却費の合計}}$$

$$\text{減価償却費} = \text{個別資産の要償却額の合計} \div \text{平均耐用年数}$$

伝統的な会計上の総合償却における除却の処理は、総合償却では除却時の除却資産の簿価は不明なので、残存価額を残した要償却額全額を減価償却累計額として取崩す。
したがって、除却損益は計上されない。

(解 説) 固定資産 (単位: 千円)

1. 自家建設をした工場の取得原価の計算【資料1】

(1) 製造原価: 材料費254,800 + 賃金113,700 + 経費98,500 = 467,000

(2) 稼働前の借入利子の取得原価への算入

$$\text{借入額} 400,000 \times 3\% \times \frac{6\text{月}}{12\text{月}} = 6,000$$

(3) 取得原価: (1) 製造原価467,000 + (2) 利子算入6,000 = 473,000

2. 備品の交換仕訳

(1) 備品を交換で取得した際の仕訳【資料2】

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
備 品	(注) (① 26,600) 千円	備 品	(② 56,000) 千円
[⑦工備品減価償却累計額]	(29,400) 千円	[⑧ シ な し]	(-) 千円

(注) 貸借差額。

3. 機械の総合償却における平均耐用年数【資料3】

	取得原価	残存価額	償却総額	個別耐用年数	每期償却額
機械A	98,000	9,800	88,200	12年	7,350
機械B	60,000	6,000	54,000	8年	6,750
機械C	168,000	16,800	151,200	16年	9,450
機械D	124,000	12,400	111,600	8年	13,950
機械E	100,000	10,000	90,000	12年	7,500
計	550,000	55,000	495,000		45,000

平均耐用年数 11 年 (= 495,000 ÷ 45,000)

4. 解答の仕訳

(1) 備品を交換で取得した際の仕訳【資料2】

上記2. 参照。

(2) 初年度末の決算時に機械A～Eを定額法で総合償却した際の仕訳

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
減 価 償 却 費	(注) (③ 45,000) 千円	機械装置減価償却累計額	(45,000) 千円

(注) 償却総額495,000 × $\frac{1\text{年}}{11\text{年}} = 45,000$

(3) 機械Cを除却した時の仕訳

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
機械装置減価償却累計額 [⑨ コ 貯蔵品]	(注1) (④151,200) 千円 (注2) (⑥ 16,800) 千円	機 械 装 置 [⑩ シ なし]	(⑤168,000) 千円 (-) 千円

(注1) 取得原価168,000 - 残存価額16,800 = 151,200

(注2) 残存価額又は貸借差額。

問 2 **ポイント**

連結財務諸表…株式の売却 (単位：千円)

1. 個別仕訳

(借) 諸 資 産	売却価額 (貸) 子 会 社 株 式	売却原価
	子 会 社 株 式 売 却 益 (注)	差 額

(注) 子会社株式売却益：売却価額－売却原価

2. 連結仕訳

(借) 子 会 社 株 式	売却原価 (貸) 非 支 配 株 主 持 分 (注1)	売却持分
子 会 社 株 式 売 却 益	個 別 止 売 却 益 資 本 剰 余 金 (注2)	差 額

(注1) 売却持分：子会社の純資産時価合計×売却持分比率。

(注2)

売却価額 35,000	個別上の 売却原価 34,000	個別上の 売却益 1,000	連結上の 売却原価 (売却持分) 30,620	連結上の 売却損600	合計が連結 上の売却損 益⇒ 資本剰余金 として処理 (∵)非支配 株主との売 却取引は、資 本取引であ るから。
			のれん全額 3,980	連結上の 売却益 3,980	

(解 説) 連結財務諸表…株式の売却 (単位：千円)

1. S社資産・負債の時価評価…個別修正仕訳 (X1年3月31日)

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
土 地	(注1) (8,000) 千円	評 価 差 額 [①エ繰延税金負債]	(注2) ② 5,600) 千円 (注3) ③ 2,400) 千円

(注1) 簿価修正額：時価46,000－帳簿価額38,000＝8,000

(注2) 評価差額：8,000×(1－30%)＝5,600

(注3) 繰延税金負債：8,000×30%＝2,400

2. P社とS社の投資・資本相殺消去の連結仕訳 (X1年3月31日)

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
資 本 金	120,000 千円	S 社 株 式	136,000 千円
利 益 剰 余 金	(24,500) 千円	非 支 配 株 主 持 分	(注2) ⑥ 30,020) 千円
評 価 差 額 [④ ア のれん]	(5,600) 千円 (注1) ⑤ 15,920) 千円		

(注1) のれん：S社株式136,000－P社持分150,100(＝資本金120,000＋利益剰余金24,500＋評価差額5,600)×80%＝15,920

(注2) 売却持分 : 150,100 (= 資本金120,000 + 利益剰余金24,500 + 評価差額5,600) × 20% = 30,020

3. S社株式の売却 (X2年3月31日) …個別上の処理

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
諸 資 産 [⑦ シ な し]	35,000 千円 (-) 千円	S 社 株 式 [⑧オ子会社株式売却益]	(注1) (⑨34,000) 千円 (注2) (1,000) 千円

(注1) 売却原価 : S社株式136,000 × $\frac{20\%}{80\%}$ = 34,000

(注2) 貸借差額。

4. S社株式の一部売却の連結仕訳 (X2年3月31日)

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
S 社 株 式 [子会社株式売却益]	(注2) (34,000) 千円 (注2) (1,000) 千円	非 支 配 株 主 持 分 [⑩キ 資本剰余金]	(注1) (⑪30,620) 千円 (注3) (4,380) 千円

(注1) 売却持分 : X2年3月31日のS社の純資産合計 × 非支配株主持分比率。

(1) 資本金 : 120,000

(2) 利益剰余金 : B/S 貸方合計295,000 - 諸負債147,500 - 資本金120,000 = 27,500

(3) 評価差額 : 5,600

(4) 153,100 (= (1) 120,000 + (2) 27,500 + (3) 5,600) × 20% = 30,620

(注2) 上記3. の仕訳より。

(注3) 貸借差額。ないし、売却価額35,000 - 連結上の売却原価 (= 売却持分) 30,620 = 4,380

5. S社の当期純利益の非支配株主への連結振替仕訳 (X2年3月31日) フローは、P社80%、非20%。

借 方		貸 方	
勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
[⑫コ 非支配株主損益]	(600) 千円	[非支配株主持分]	(注) (⑬ 600) 千円

(注) 3,000 (= X2年3月31日利益剰余金27,500 - X1年3月31日利益剰余金24,500) × 20% = 600